



Smiles for the Public

2022年(令和4)3月期 第3四半期説明資料



TOA株式会社

将来の見通しについて

- 当社が開示する情報の中には将来の見通しに関する事項が含まれている場合がありますが、発表時点での情報に基づく予測であり、経済情勢等の変化によって大きく異なる結果となる場合があります。当社としましては、将来見通しの精度を高めるための努力をするとともに、見通しの変化が生じる場合には適宜開示いたします。
- 当社ホームページは投資勧誘を目的にしたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断においておこなわれるようお願いいたします。
- 当情報の正確さや掲載内容につきましては細心の注意を払っておりますが、なんらそれらの正確性を保証し、または責任を負うものではありませんのでご了承ください。

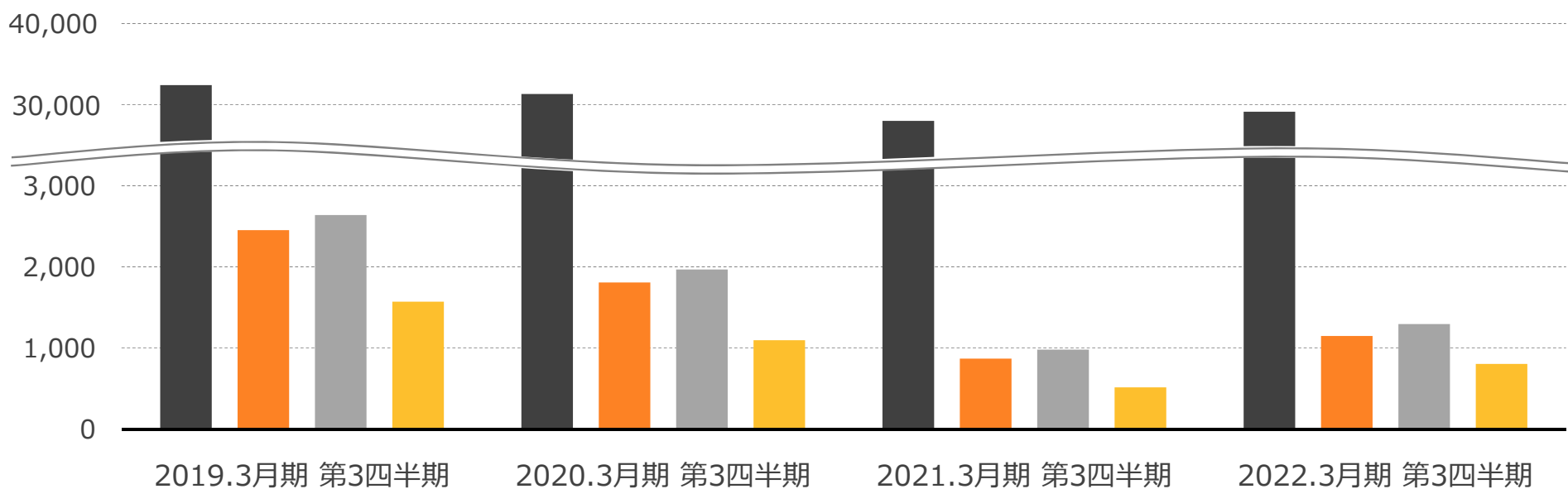
2022年3月期 第3四半期決算業績

2022年3月期 第3四半期業績の概況報告

- 多くの地域において新型コロナウイルス感染症からの復調の兆しが見えているものの、変異ウイルスの流行による再拡大への懸念や、原材料価格の高騰、半導体不足や輸送コストの上昇など世界経済の先行きについては引き続き注視が必要。
- 第3四半期の業績に関しては、前年同期比で増収増益。
日本セグメントにおいては、大型空港へのシステム納入のほか、教育市場向け・街頭防犯などが好調となるものの、鉄道車両向けの売上減少及び原材料価格の高騰などにより減収減益。
海外では、全セグメントで増収増益。欧州・中東・アフリカセグメントでは各地域で大型案件の納入が進んだほか、アメリカセグメントでは商業施設向けの大型案件が進む。中国・東アジアセグメントでは台湾の大型スポーツ施設の納入や、大手半導体工場向け売上が引き続き伸長。
- 社内計画に対しては、売上・利益ともに未達。日本セグメントの売上減少、及びアジアパシフィック地域でのロックダウン、原材料価格の高騰などが主な要因。
- 通期の業績予想については、2021年5月に公表した数値から変更なし。
引き続き、計画を着実に実行する。

2022年3月期 第3四半期の業績（連結）

(単位：百万円) 40,000



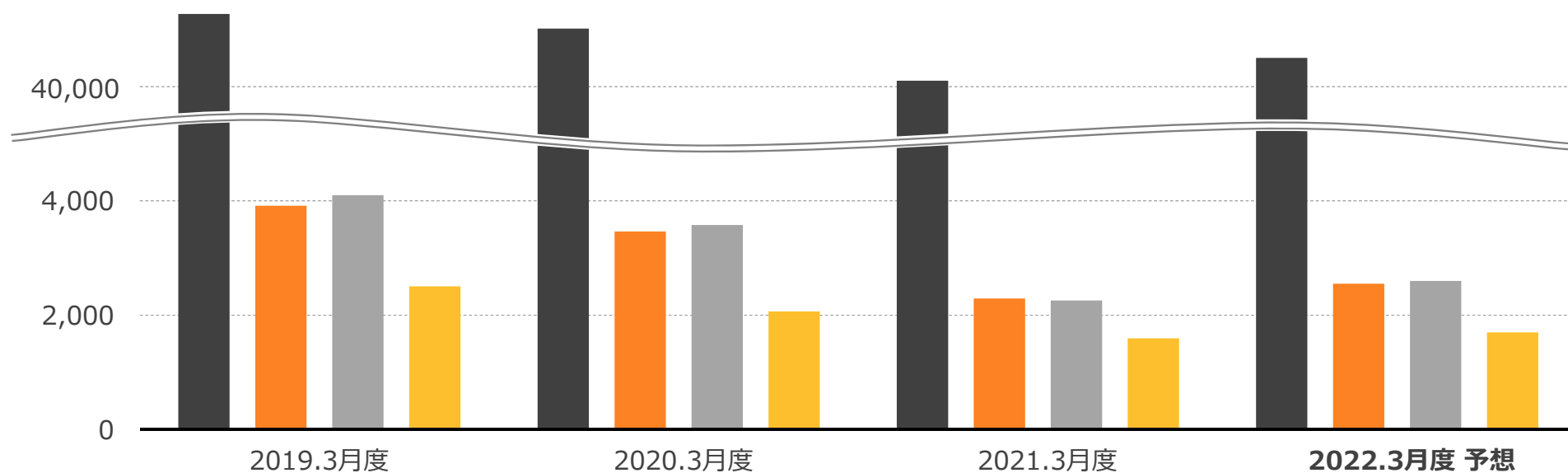
■ 売上高	32,422	31,229	28,074	29,128	3.8%
■ 営業利益	2,453	1,807	868	1,148	32.3%
■ 経常利益	2,639	1,968	980	1,294	32.1%
■ 最終利益（注）	1,571	1,095	514	803	56.3%

(注) 親会社株主に帰属する四半期純利益

※%表示は前年比増減率

期末業績予想（連結）

(単位：百万円) 50,000



■ 売上高	46,338	45,068	40,575	42,000
■ 営業利益	3,903	3,465	2,293	2,550
■ 経常利益	4,099	3,577	2,558	2,600
■ 最終利益 (注)	2,504	2,065	1,596	1,700

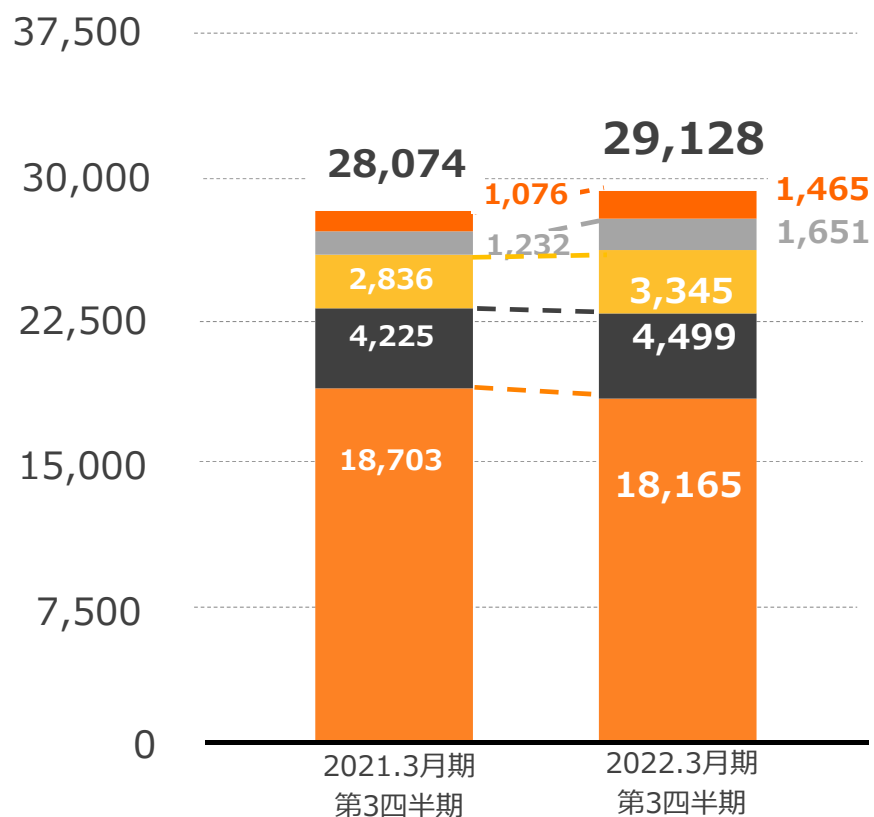
(注) 親会社株主に帰属する当期純利益

セグメント別実績並びに分野別実績

2022年3月期 第3四半期の業績 (セグメント別)

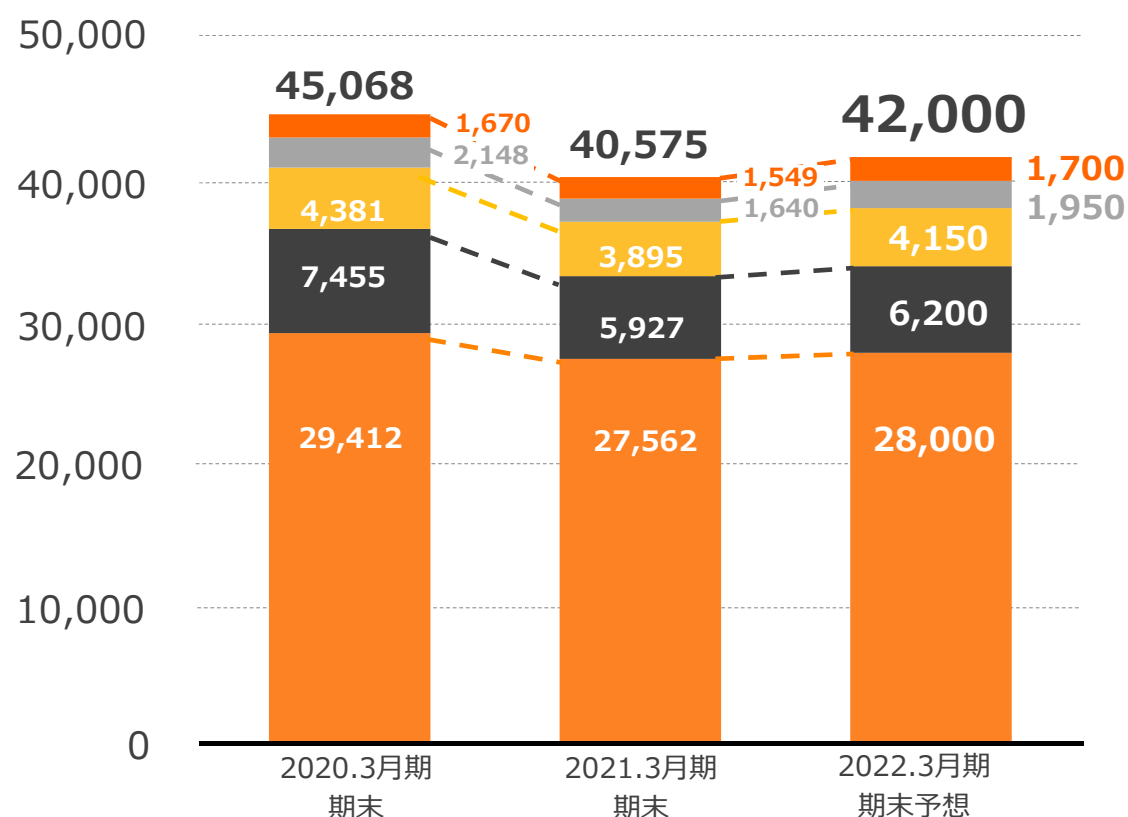
(単位：百万円)

第3四半期 実績



(単位：百万円)

期末業績予想

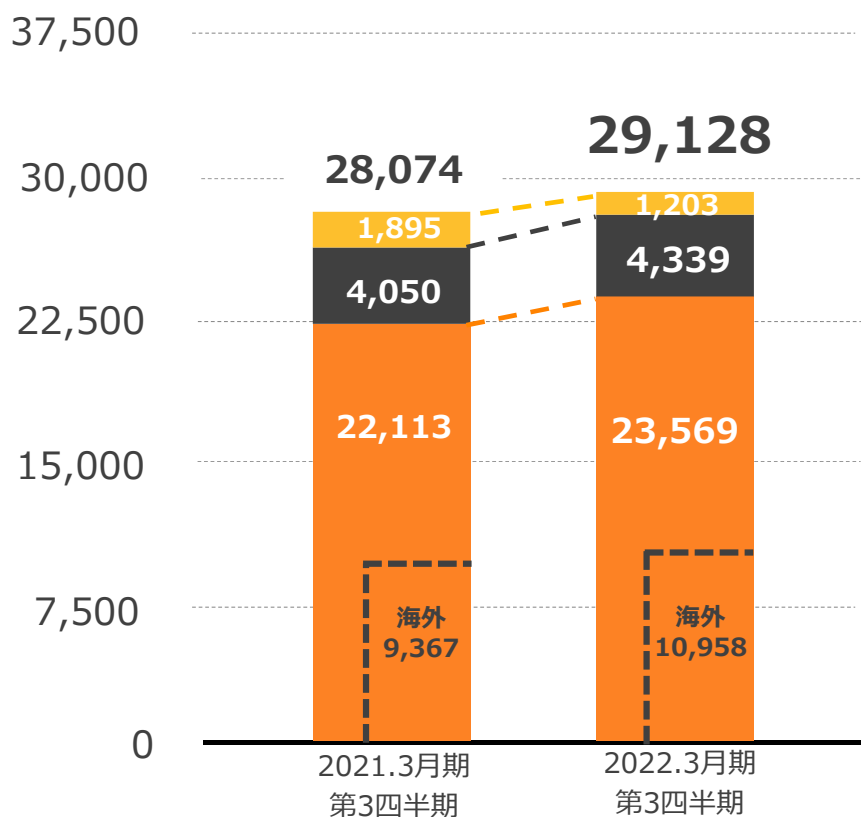


■ 日本
 ■ アジア・パシフィック
 ■ 欧州・中東・アフリカ
 ■ アメリカ
 ■ 中国・東アジア

2022年3月期 第3四半期の業績（製品分野別）

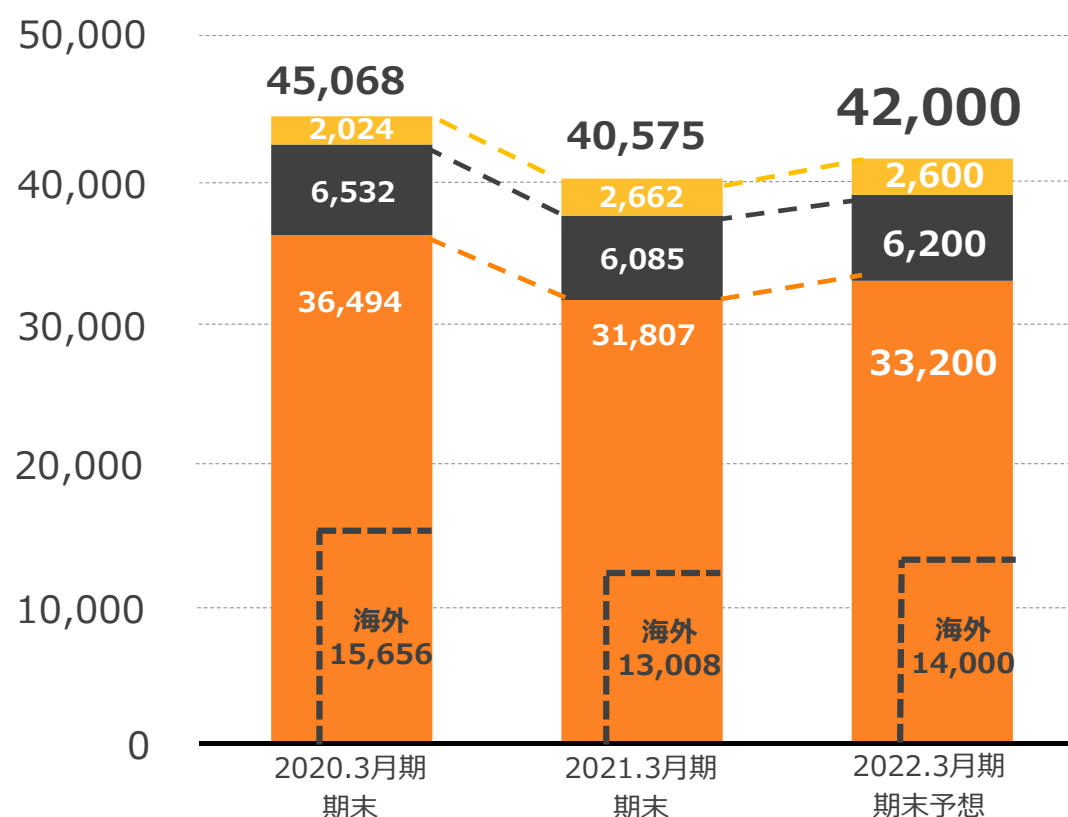
(単位：百万円)

第3四半期 実績



(単位：百万円)

期末業績予想



■ 音響 ■ 映像 ■ 鉄道車両

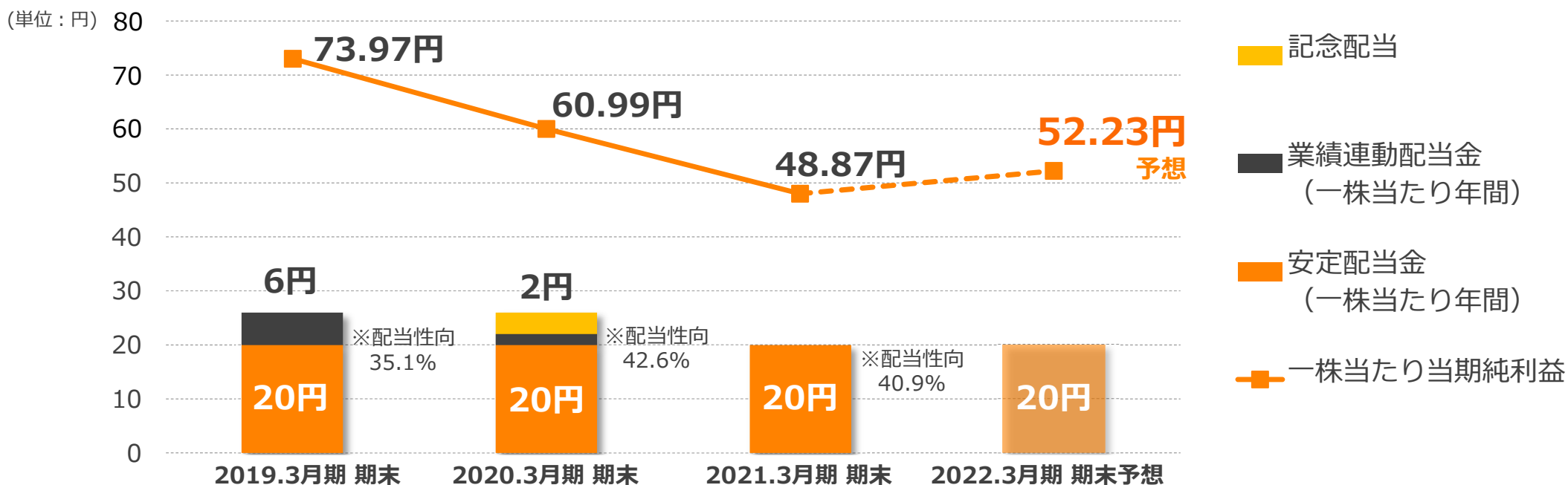
研究開発費・設備投資と減価償却費の推移（連結）

(単位：百万円)	2021.3月期 第3四半期	2022.3月期 第3四半期	増減額(前年比)	2022.3月期 期末計画
研究開発費	2,079	1,998	▲81	3,076
設備投資	1,272	605	▲667	1,522
減価償却費	1,059	1,042	▲17	1,475

- 研究開発施設「ナレッジスクエア」への大規模投資は、2021年3月期にて終了
- 現在はデジタル基盤の整備を進める

2022年3月期 予想配当

安定配当20円を維持



配当については、以下の事項を総合的に勘案して決定する方針

- 年間 20 円（中間配当 10 円、期末配当 10 円）の配当を維持。
- 最低額を20円/株とした業績連動配当（35%を目安）の実施。
- 持続的な成長を可能とする内部留保とのバランスを勘案。

補足資料

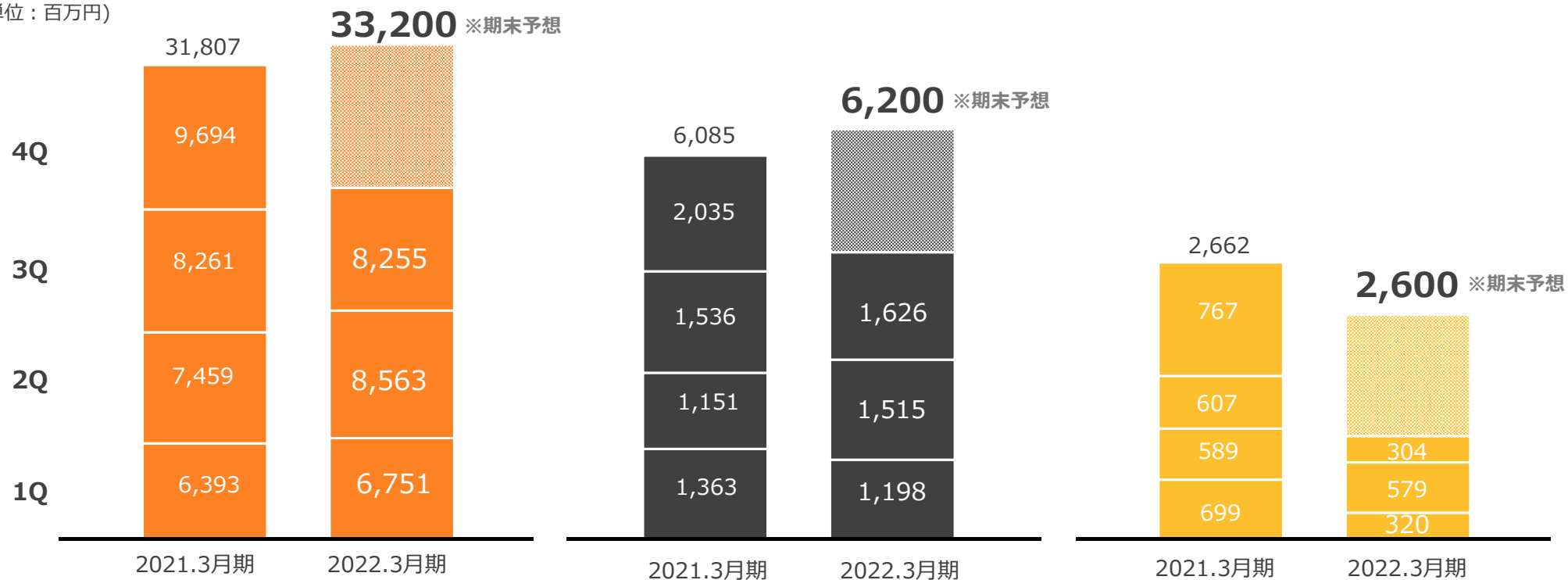
四半期別 売上の推移(分野別)

音響

映像

鉄道車両

(単位：百万円)



国内市場別トピックス

市場	2022年3月期 第3四半期	トピックス
教育		放送・映像設備の販売が引き続き好調。 今後も、放送・映像設備による感染症対策などの販売増加が見込める。
工場		前期に比べ、大型案件が限られ減少。 第2四半期に比べ回復傾向。提案活動が進んでおり、今後に期待。
商業施設		ショッピングモールやスーパーなどが引き続き好調。 非常用放送設備、音源放送機器、感染症対策商品などの更新・新規需要が高まる。
オフィスビル		コロナによる需要の減少が今期も続く。
病院		前期の第3四半期が大きく伸びた為、前期比では横ばいに。 感染拡大対策を目的としたリニューアル案件の獲得を継続する。
交通インフラ		関西国際空港にてオペレーション機能向上とBCP対策を考慮したソリューションを納入 道路は前期比で横ばい、鉄道施設関連は減少
減災防災		前期の設備導入ピークを迎えた反動減となる 補助金の期間延長も受け、今後のリニューアル案件獲得に向けた仕様化に取り組む

- 前期に引き続き、官公庁需要が伸長。

※上記は前年同期比、国内単体実績を参考に記載しております。

